

Noritake

ノリタケグループDX戦略レポート

2025年12月22日

- ▷ DX推進委員長のメッセージ
- ▷ ノリタケグループDX Targets 2030
- ▷ DX推進の原動力である「人」への投資と育成の成果
- ▷ DX推進に関する管理指標とIT環境整備に対する考え方

ノリタケグループは、2030年度のありたい姿として掲げたVISION2030の実現に向け、市場や競争環境の変化にスピード感をもって対応できるようDXを推進しています。

ノリタケグループの競争力の源泉は、120年以上にわたり蓄積してきた知見とノウハウです。私たちは、これらの社内データを「資産」と捉え、組織として最大限に活用し、業務プロセスを革新しながら新たな価値を創造することを目指しています。その未来像を示すものが「ノリタケグループDX Targets 2030」です。これを実現するために、従業員が一丸となり、以下の取り組みを進めています。

①DX推進体制の構築

2024年度にノリタケグループ横断組織である「DX推進委員会」を設置し、DX推進に向けた体制を構築しました。DX推進委員会は、ノリタケグループのDX方針・戦略の策定、各事業のDX活動の進捗管理を担い、より早くVISION2030を実現できるよう、DXの取り組みを加速させています。

②DX推進人材の育成

社内データを活用できる人材を育成するべく、2023年度から「DX推進リーダー育成プログラム」を開始し、有志および部門推薦で集った従業員に1年間の集中教育を行っています。今後、教育プログラムの拡充やDX推進人材の育成基盤整備を進め、2030年度の目標として全従業員の10%をDX推進人材とすることを目指します。



DX推進委員長
執行役員 清水英孝

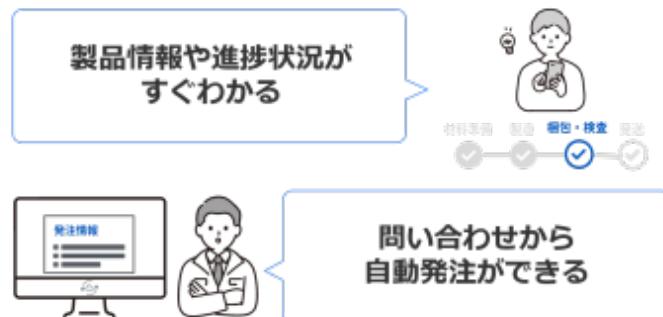
ノリタケグループは、全従業員がデータを武器に従来の業務プロセスを変革して新たな価値を創造していくことを目指し、DXで目指す姿を「ノリタケグループ DX Targets 2030」として明確にしています。

Target 01

顧客視点での製販技プロセス設計

デジタル技術を活用することで、お客様からの要望・情報の社内伝達を高速・円滑化し、迅速に対応できる

顧客からの要望・情報をデータでつなぐ



Target 02

必要な情報がつながり、誰でも使える環境

必要な情報をデータ化してつなげ、全従業員がそれらのデータをいつでも活用できる

情報が人を介さずにつながる



Target 03

DXに関するリテラシーが高い組織

ビジネスを変革するためにデータに基づいて意思決定できる

データをビジネスに活用できる人材を増やす



Targets 01 顧客視点の製販技プロセス設計

より迅速に、より的確に、顧客の要望に応えられるよう、デジタル技術を活用して、お客様からいただく要望・情報を社内でリアルタイムに共有できる環境を整備します。その上で、顧客視点で最適化された製販技プロセスを構築します。これらを通じて、変化の激しい現代において競争力をさらに高めるとともに、資産となる知見・ノウハウのさらなる蓄積と活用に繋げます。

【Targets 01が達成された姿の例】

✓ 顧客視点

発注前

欲しい製品の情報から、製品を検索可能
対応可否・納期・価格がすぐわかる



発注後

発注番号で
製品の進捗状況がわかる



✓ 従業員視点

受注情報をもとに、**生産のキャパシティ確認**や**材料発注**などを
人を介さずリアルタイムに実施可能



受注情報を受け取ると
自動で生産計画が組まれる



受注と連動したデータベースで
生産キャパシティや材料発注が
確認できる



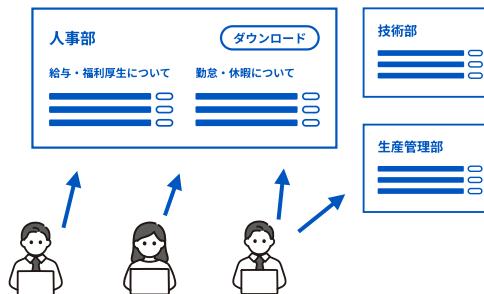
製販技で、同じデータを見ながら
顧客対応や製造を
進めることができる

Targets 02 必要な情報がつながり誰でも見える環境

社内に蓄積されたデータを、単なる情報ではなく「価値ある資産」として活用するために、全従業員がアクセスでき、必要な情報をいつでも活用できるデータプラットフォームを構築し、情報が自動で更新・整備される状態にします。

【Targets 02が達成された姿の例】

- ✓ 全従業員が**各部署の整備された情報**にアクセスできる



- ✓ 情報がすぐに見つからない場合、容易に**問い合わせができる**



- ✓ 情報はデジタル技術により**自動で更新・整備される**

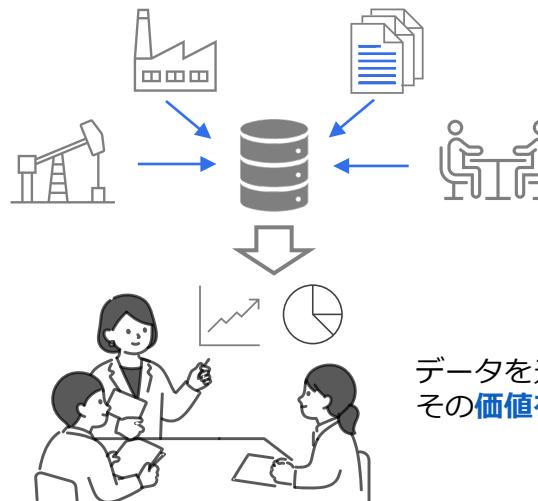


Targets 03 DXに関するリテラシーが高い組織

DXに関するリテラシーとは、「価値あるデータとは何か」を見極め、そのデータを日々の業務の判断に活かす能力を指し、社内データを組織として最大限に活用することが重要だと考えています。そこで、成功・失敗の結果だけでなく、その過程で得られるプロセス情報もデータとして蓄積し、これらのデータに基づいた意思決定を重ねていきます。このように、全従業員がデータを武器にすることで、挑戦する組織風土の醸成にも繋げます。

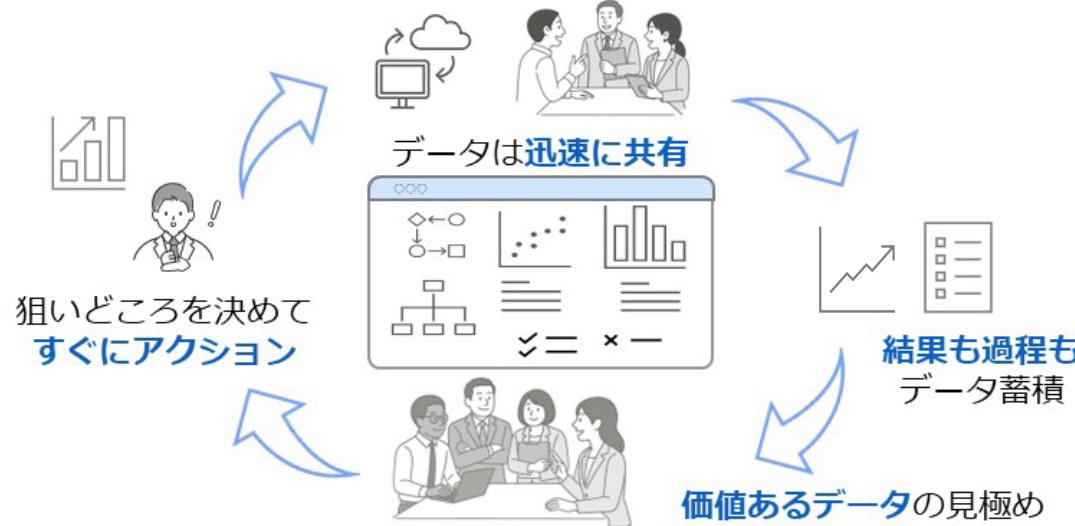
【Targets 03が達成された姿の例】

✓ 価値あるデータを選んで活用



データを元に議論することで、
その**価値を共有**して活用できる

✓ データに基づいた意思決定とアクションを高速に繰り返す



ノリタケグループは、従業員自身が、資産である社内データの活用を通じて事業課題を解決することがDX推進の近道だと考え、DX人材の育成を重要視しています。

2023年度より開始した「DX推進リーダー育成プログラム」は、週2日、1年間の集中教育を行う実践型プログラムです。2つのステップで構成し、単なる学習ではなく、社内データを活用した事業課題解決の実践までを行う内容となっています。

1stステップ：基礎スキル習得

プログラミングやデータ分析、AI活用などの基礎スキルを学習

2ndステップ：事業課題解決

チームで実際の事業課題に取り組み、事業部長を含む関係者と協議しながら、解決策の立案、実装、運用まで行う



10,000
時間超



100
件超



50
人超

▲DX推進リーダー育成プログラムに関する成果



▲DX推進リーダー育成プログラムの様子

DX推進に関する管理指標

DXの取り組みを評価・推進するために、ノリタケグループのマテリアリティの一つである「新しい価値の継続的な提供」に向けた取り組みである「業務プロセスのイノベーション推進」の2027年度目標に対して、成果や活動の進捗を管理する指標を設定し、定量的・定性的なモニタリングを行っています。

2027年度目標	管理指標	指標設定の狙い
デジタルを用いた業務プロセスの見える化と効率化・高度化	各事業のDX活動のKPI、活動数	DX推進を通じて、各事業の課題解決を図る。
	成果件数、効果時間	
MIの活用推進	活動テーマ数	データ駆動型の開発手法を導入し、技術開発のスピード向上を図る。
DX人材育成プログラム構築	DX人材教育受講者数	DX人材の拡充や開発環境の構築により、組織全体のDX推進力を強化する。

IT環境整備

DXの取り組みを支えるIT環境の一つとして、クラウド環境の整備を行い、製造・販売・技術のシームレスな連携を促進しています。また、ゼロトラストネットワークを構築し、セキュリティの強化を図るとともに、データ基盤の構築を進めています。さらに、生成AIなどの最新IT技術を活用できる環境を整え、IT環境面からもDX推進力を強化しています。

Noritake